

2023 年度日本農業史学会・学会賞候補業績募集および 2024 年研究報告会(個別報告募集)ほかのお知らせ

会員各位

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日本農業史学会より標記の件について、以下の通りお知らせします。

(I) 2023 年度日本農業史学会賞(学会賞・奨励賞) 候補業績の募集

以下の通り、2023 年度日本農業史学会賞(学会賞・奨励賞) 候補業績を募集いたします。

- [学会賞] (1) 対象者：優れた研究業績を公刊した 40 歳以下の会員(研究業績刊行時点)
(2) 対象業績：過去 2 年間(2022 年 1 月～2023 年 12 月)に公刊された著書およびそれに準ずるもの
- [奨励賞] (1) 対象者：将来の発展が期待される研究業績を公刊した 40 歳以下の会員(研究業績刊行時点)
(2) 対象論文：過去 2 年間(2022 年 1 月～2023 年 12 月)に公刊された論文およびそれに準ずるもの。

[応募方法]: 本会会員の推薦によります(著者自ら推薦することを妨げない)。推薦に当たっては、所定の推薦書を付してください。一度対象となった業績の再応募は認められませんが、同一人物でも別の業績であれば差し支えありません。

推薦書および対象となる業績(著書の場合 1 部、論文の場合 5 部(コピーでも可))を事務局までご送付下さい。締切りは、**2024 年 1 月 31 日**といたします。

「推薦書書式」は、学会HP(学会規約→日本農業史学会賞表彰規程細則→「別添書式(学会賞推薦書)」または「別添書式(奨励賞推薦書)」)からダウンロードしてください。

<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/institution.html>

学会賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki1.doc>

奨励賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki2.doc>

なお、学会賞と奨励賞はそれぞれ別の書式を使用することになります。ご注意ください。

(II) 2024 年日本農業史学会研究報告会に関するお知らせ

2024 年の日本農業史学会大会は対面方式にて行います。(ただし午後からの大会シンポジウムは Zoom にて中継する方向で検討しています。)また久しぶりに懇親会を予定しています。

研究報告会のプログラムや会場案内は、2 月上旬にお知らせする予定です。

記

日時：**2024 年 3 月 29 日(金)** 午前：個別報告、午後：大会シンポジウム

会場：**東北大学農学部・青葉山キャンパス**

(「青葉山コモンズ」2 階の第 5 講義室および第 9 講義室)

①個別報告の募集について

個別報告をご希望の方は、下記要領にて電子メール(ないし郵便)で学会事務局までお申し込みください。

1) 必要書類：申込用紙（氏名、所属、報告タイトル、連絡先、メールアドレス）

および**報告要旨(1,000字以内)**。書式は任意です。

2) 申込期間：2023年12月18日（月）～**2024年1月31日(水)**。

3) 申込先：学会事務局まで。

メールの場合：office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵送の場合：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻比較農史学分野気付

日本農業史学会事務局まで

なお、報告時間は最長で50分（報告40分、質疑応答10分）を予定しています。（ただし報告者数が多い場合には短縮されることがあります。あらかじめご了承ください）。

会員各位の積極的な応募を期待しております。大会プログラムは2月上旬にメールにて改めてご案内する予定です。

②予告:2023年日本農業史学会シンポジウム

戦後日本農業・農村における技術革新の歴史的経験

一人びとはテクノロジーに何を託したのかー

オルガナイザー：板垣 貴志（島根大学）

【趣旨説明】

本年度の日本農業史学会大会シンポジウムでは、戦後日本農業・農村における技術革新の歴史的経験について議論を試みたい。昨今では、日本経済が長く停滞するなかで、技術革新の必要性が声高に叫ばれ続けている。日本農業の現場においても、スマート農業が推奨され、ロボット技術や情報通信技術を活用した、省力化や精密化、高品質生産が目指されている。

歴史を顧みれば、技術革新の用語は、1956（昭和31）年の『経済白書』に登場した。農業機械化が急激に進展しつつあった高度経済成長期。人びとは、農業機械のような新しいテクノロジーに大きな期待を抱きながら、時に翻弄された。いったい当時の「人びと」は、テクノロジーに何を託していたのか。この歴史的経験を、今日改めて議論する意義はあろう。

一般に、高度経済成長期といえ、国民一丸となって経済成長に邁進した時代イメージが人口に膾炙している。しかし、実際にはテクノロジーに託す政府の政策意図や企業の思惑、各農家の思いには相違が存在し、「人びと」の間には、矛盾や齟齬、意図と結果の乖離などがあった。本シンポジウムでは、その巨大な技術革新による変化のプロセスを紐解き、丹念に紡ぎ描くことを試みたい。

【報告者とコメンテーター】 (報告タイトルはいずれも仮題です)

趣旨解題：板垣 貴志

報告者：芦田 裕介 (神奈川大学) 「戦後日本の稲作における農民的機械化の展開 (仮)」

岩島 史 (京都大学) 「戦後農村における家庭電化という経験 (仮)」

板垣 貴志 (島根大学) 「戦後の和牛改良と家畜人工授精—使役牛から肉牛へ— (仮)」

コメント：瀬戸口 明久 (京都大学)

友松 夕香 (法政大学)

司会： 藤原 辰史 (京都大学)

③懇親会

研究報告会終了後、会場と同じ建物にある東北大学生協の「みどり厚生会館(青葉山新キャンパス)」にて懇親会を持つ予定です。

(Ⅲ) その他

・会場確保の関係から、今回の研究報告会は東北大学農学研究科との共催になります。

(担当：

・研究報告会の翌日の3月30日(土)には同じ東北大学農学部で日本農業経済学会が開催されます。今回は同学会百周年記念大会として五つの特別シンポジウムが設けられますが、その中に「歴史から農業経済学を照射し未来を展望する」と題した農業史関連のシンポジウムが行われます(特別シンポジウムⅢ：13:30～15:10：青葉山コモンズ及び環境科学研究科棟)。座長は伊藤淳史さん(京都大学)、報告者は小島庸平さん(東京大学)、藤原辰史さん(京都大学)、湯澤 規子さん(法政大学)、コメンテーターは野本京子さん(東京外国語大学)です。詳しくは下記の農経学会のサイトを参照ください。

[2024年度大会\(学会創立100周年記念大会\)のお知らせ\(日本語\)](#)

日本農業史学会事務局

office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵便振替口座 00180-9-20117

(連絡先) 〒606-8502：

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻

比較農史学分野気付

Tel： 075-753-6184(足立)、Fax 075-753-6191